

ソフトウェア開発標準プロセスのテーラリングの管理 における一考察

葭谷 努[†]

TIS 株式会社[†]

要旨: ソフトウェアプロセス改善の推進には、標準プロセスの確立と標準プロセスをテーラリングして使用する事が重要になる。これまで、ソフトウェアプロセス改善を推進してきたが、現状では、標準プロセスのテーラリングには、効率的かつ効果的な方法・手法が取られてきてはいない。テーラリングにおける対象プロセス相互のテーラリング情報を双方向に正確に管理でき、その情報をデータとして再利用できる事が、課題となる。本論文は、この標準プロセスのテーラリングの実施、テーラリング情報の管理と再利用を、効果的、効率的に行うために、トレーサビリティ管理の方法を応用する事を考察、提案するものである。

1. 背景

ソフトウェアプロセス改善には、標準プロセスの確立・適用・改善が不可欠である。標準プロセスのテーラリングの容易性は、標準の遵守性とPJ特性への合致の両立を促進し、また、テーラリング情報が改善への契機になる事があるため、テーラリング情報の効果的活用はプロセス改善を促進させる事に繋がると考えられる。

2. 現状の問題

これまで、ソフトウェアプロセス改善を推進してきた中で、標準プロセスのテーラリングに効率的かつ効果的な体系的な方法・手法は取られていないのが現状である。例えばプロジェクト計画を行う際に、既存のプロジェクト計画書、WBS等を流用、利用して新しい計画を作成する事は多いが、その場合には既存資産には標準プロセスからのテーラリング情報は欠落しているため、適切、的確な標準プロセスからのテーラリングを行っていない場合が往々にしてある。プロセスと成果物の品質保証において、標準プロセスへの遵守性の確認は行うが、後追いで修正による手戻りになり、あるいは、プロジェクトにおいて組織に蓄積された標準プロセスデータの活用にも支障を来す事になる。さらには不遵守のままプロジェクトを進行する事になる場合もあり、結果として標準プロセスの形骸化、ひいては、改善プロセスが回らない悪循環等の要因の一つになっている事は予想される。

3. 解決すべき課題及び解決策

標準プロセスからプロジェクトのプロセスを定義する際のテーラリングにおける、対象プロセス相互のテーラリング情報を双方向に正確にデータとして管理でき、その情報を再利用して

活用できる様にする事が課題となる。

そこで、この標準プロセスのテーラリングを効果的に実施し、効率的、的確に管理と活用を行うために、トレーサビリティ管理ツールを使用してトレーサビリティ管理の方法を応用する事を解決策として考察した。

解決策のポイントを以下に示す。

- ✓ 標準プロセスからのテーラリングによるプロセス定義を行う際、及び、そのレビューの際にテーラリングツールを使用してトレーサビリティ管理によりテーラリングの適切性が確保できる様にする事。(プロジェクト計画書/管理計画書の項目及び内容の定義、成果物定義、WBS定義、等において)
- ✓ 標準プロセスからのテーラリング情報を利用して、下位レベルの組織の標準プロセスあるいはプロジェクトのプロセス定義が、より上位の標準プロセスとの関連性/対比を、効果的に可視化できる様にする事。
- ✓ プロジェクトのデータ分析において、標準プロセスからのテーラリング情報を利用して、組織のプロセスデータベースのデータとプロジェクトのデータを柔軟に結び付けて分析/評価できる様にする事。
- ✓ これらを実施できるしくみを事前に組み込んだ、組織の標準の「プロジェクト・ポータル」の雛形を準備し、組織内に提供する事。

これにより、以下の効果が想定できる。

- ✓ 標準プロセス・標準成果物の維持作業の高効率かつ正確になる
- ✓ 既存成果物からプロジェクト成果物の作成時の、標準プロセスからのテーラリング情報が保持され、テーラリングを的確に行える
- ✓ データ分析時に標準の工程による分析を容易かつ的確になる
- ✓ 標準プロセスの啓蒙・展開が促進される

4. まとめ

本論における解決策の考察の実プロジェクトにおける適用は未実施である。実際に適用しての効果確認が、今後の課題である。

A Study of Management of Tailoring from Standard Software Development Process

[†]YOSHITANI, Tsutomu TIS Inc.,

